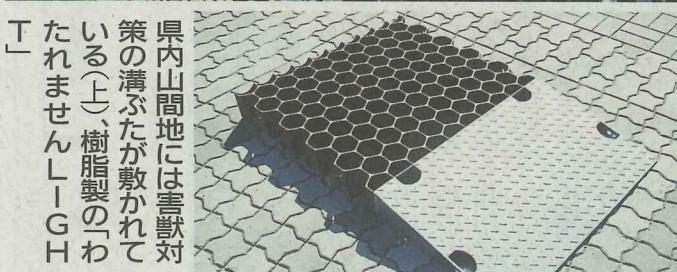


「わたれませんLIGHT」は1枚当たり幅90センチ、奥行き79センチ、重さ20キロ程度。直径8センチ、深さ12センチの六角形の穴がハチの巣状に開いており、イノシシやシカが通過しようとすると足を取られる。ひづめが穴に落ちたり挟まつたりするのを嫌う習性を利用した。



県内山間地には害獣対策の溝ぶたが敷かれている(上)、樹脂製の「わためせんLIGHT」

JA全農ぐんま 県産ハクサイ贈る
県産の野菜の魅力を
知つてもらおうと、JA全農ぐんまは1月28日、NPO法人三松会(館林市)が運営する「フードバンク北関東」に佐波伊勢崎、邑楽館林の両JA管内で収穫されたハクサイを寄贈した。

JA全農ぐんま
国の「緊急需給調整

必要な人に野菜を



フードバンク北関東にハクサイを届けるJA全農ぐんまの担当者

事業」の一環
今まで野菜
ードバンクに
り加工用に販
して、有効に
よう努めてい
フードバン
菜の寄贈は今
目。NPOを
県内の福祉施
も食堂などこ
る。

害獣による農作物への被害を防ごうと、コンクリート製品製造の赤城商会(渋川市吹屋)が、動物が農地に侵入する際の経路となる道路上に設置し、動物を足止めする樹脂製の溝ぶた「わためせんLIGHT」の普及を進めている。従来の金属製よりも低コストで簡単に施工できるメリットがあり、全国の農家が積極的に導入している。

「わたれませんLIGHT」は手軽な樹脂製の人気商品です。必要な枚数を平らな地面にボルトで連結させる簡単な作業で設置できる。大人2人が半日程度で取り付けられる手軽さと1枚5万2千円(応相談)という価格設定が好評で、1月末までに北海道から九州地方の農地・民間施設など37カ所に計366枚を納品した。

同社は2012年から、県中部農業事務所や県鳥獣課長は溝ぶたは全国での納入実績は増えているが、公道に設置する仕様で、土木施工技術や機械が必要。そのため、生産者から自らの手で対策したいという声が寄せられた。低コストかつ簡単施工という消費者の需要に応じる形で、19年に林道や農

赤城商会の手軽な樹脂製人気

溝ぶたで害獣対策強化



ビニール適切な温

J Aぐんま女性組織協議会とJA群馬中央会は7日、前橋市のJAビルで第

63回JAぐんま女性大会を開いた。JA女性組織活動体験発表は、JA利根沼田

道に設置できる樹脂製の商品の販売を始めた。

福井県越前市の林道に「わたれませんLIGHT」を設置した実証実験では、20年6~10月に計6頭のシカが確認されたが、道を越える姿は見られなかった。

同社開発営業部の柳沢正和課長は、「溝ぶたを置くことで地元農家が害獣対策に向け意識を高めるきっかけにもなっている」と話す。

長谷川さんが最優秀賞

J Aぐんま女性大会

組織活動を発表

最優秀賞を獲得。長谷川さんは7月に栃木県で開かれる関東甲信越地区女性組織リーダー研修会に眞代表として出場する。

長谷川さんは「今、私たちにできること」をテーマに

県内の野生鳥獣による農業被害額(20年度)は5億6152万円で、前年並みだが、捕獲総数は2万861頭と過去最高。農林水産省では昨年、対策として溝ぶたの設置管理マニュアルを作成するなど、その必要性は高まっている。柳沢課長は、「被害を減らす上で、農地に接続する道路上での対策として溝ぶたの設置は重要な役割を果たす」と話す。

県内の野生鳥獣による農業被害額(20年度)は5億6152万円で、前年並みだが、捕獲総数は2万861頭と過去最高。農林水産省では昨年、対策として溝ぶたの設置管理マニュアルを作成するなど、その必要性は高まっている。柳沢課長は、「被害を減らす上で、農地に接続する道路上での対策として溝ぶたの設置は重要な役割を果たす」と話す。

崎達也、小暮貴、田中弘己、田ひとみ、吉田亮太、森田平、渡辺裕太、原田美咲、内田実咲、佐藤望、竹井智帆、松島直巳、仲沢洋太、亞美、曾田和加、酒井麻実